



ユニバーシアード男子個人ロード銅メダルの山本(中央)

シクリスムエコー No.182 2011年8月号



第26回ユニバーシアード競技大会 2



2011年ジュニアトラック世界選手権大会 7



第24回全日本MTB選手権大会 8
各大会日本代表選手団 9
各大会日本代表選手団 11
ロンドンサリィ・サイクルクラシック 12

平成23年度全国高等学校総合体育大会 13
2011年BMX世界選手権大会 14



第28回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会 14
ツール・ド・ラビティビ2011 15
競技大会結果 16
加盟団体だより(11) 17
「シクリスムエコー」定期購読のご案内 17
9月中旬~10月の大会 17
連盟の動き 17
各大会日本代表選手団 18



KEIRIN



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

第26回ユニバーシアード競技大会

ロードとトラックでメダル2つを獲得!



男子ロード、銅メダル山本



男子ロード、スイスの1・2フィニッシュ



男子ロード、山本のフィニッシュ



ロード男子メイン集団の野口(手前)と吉田

ロード女子集団を引く上野

男子ロード、逃げる山本と朴



VALL が追いつき 5 名のトップグループとなる。

5 周完了後、リトアニアの MOCKEVICIUS とチャイニーズタイペイの FENG Chunkai が追いつきトップは 7 名に。メイン集団から窪木が先行するが、補給地点の先で集団に吸収される。その後、7 人のトップ集団とメイン集団のタイム差は 3 分以上になる。そして、しばらく 7 人のトップ集団が続くが、上り坂での山本はかなり辛そうにみえる。

トップ 7 人に変化はないが、メイン集団からドイツ・韓国・ロシアら数名の選手が先行し、一時はトップと 1 分 30 秒ほどの所まで詰める。

11 周目、ついにトップグループのバランスが崩れる。7 人の集団からスイスの 2 人がアタック、山本が死ぬ気で追いつがる。

その後 3 人体制がしばらく続くが、ゴールスプリントを避け OBERHOLZER が最終週の登りで再びアタック、SCHELLING が続く。

フィニッシュ手前から OBERHOLZER と SCHELLING の 2 人は手をつないで喜びをアピール。観衆の中からスイス国旗を受取り、両手で国旗を掲げながらのフィニッシュとなった。山本はその 24 秒後に喜びを全身で表しながらフィニッシュ、堂々の世界大会ロードレース初 (B 世界選を除く) の銅メダル獲得となった。

その後の集団ではゴールスプリントを制し、野口が 4 位に入り、吉田 22 位、窪木 25 位、佐々木 30 位と全員が高湿・高湿度の中、完走を果たした。

男子ロード、集団から抜け出す窪木



【競技結果】

第 26 回ユニバーシアード競技大会
(2011/8/13 中国・深圳(ロードコース))

男子個人ロードレース (156.8km)

1	OBERHOLZER Bernhard	SUI	3:50:22
2	SCHELLING Patrick	SUI	3:50:22
3	山本 元喜 奈良	鹿屋体育大	3:50:46
4	野口 正則 奈良	鹿屋体育大	3:51:58
22	吉田 隼人 奈良	鹿屋体育大	3:52:31
25	窪木 一茂 福島	日本大学	3:52:31
30	佐々木 龍 神奈川	早稲田大学	3:52:52

女子個人ロードレース (122.0km)

1	GU Sungeun	KOR	3:31:42
2	SON Hee Jung	KOR	3:31:42
3	ARNOUTS Anne	BEL	3:31:42
9	上野みなみ 青森	鹿屋体育大	3:31:42
13	明珍 裕子 岐阜	朝日大学	3:31:42
21	塚越さくら 鹿児島	鹿屋体育大	3:34:47
25	近藤 美子 愛知	鹿屋体育大	3:40:57
	田中 まい 千葉	日本体育大学	DNF



1983 年カナダ・エドモントン大会以来 28 年ぶりに自転車競技が採用された、第 26 回ユニバーシアードが中国の深圳で 8 月 13 日から 20 日まで開催された。

■ 第 1 日目 (8 月 13 日) 曇り 34℃ 男・女個人ロードレース

午前 7 時 30 分(以下全て現地時間)、まず女子個人ロードレースが、8.7km のコースを 14 周する 122.0km で競われた。11 国・地域から 34 名がエントリー。日本からは近藤美子(愛知・鹿屋体育大学)、上野みなみ(青森・鹿屋体育大学)、田中まい(千葉・日本体育大学)、明珍裕子(岐阜・朝日大学)、塚越さくら(鹿児島・鹿屋体育大学)の 5 名が参加。

上野が序盤から積極的に動くが、最終的には 17 名のゴールスプリントとなり、韓国の GU と SON の 1・2 フィニッシュとなった。集団ゴールは上野の 9 位と明珍の 13 位。塚越は 3 分遅れの 21 位、近藤は 9 分遅れの 25 位となった。田中は残念ながら落車棄権となった。



午後 2 時、18 周 156.8km の男子個人ロードレースがスタート。18 国・地域から 62 名がエントリー。日本からは野口正則(奈良・鹿屋体育大学)、山本元喜(奈良・鹿屋体育大学)、窪木一茂(福島・日本大学)、吉田隼人(奈良・鹿屋体育大学)、佐々木龍(神奈川・早稲田大学)の 5 名が参加。

スタート直後から、山本・野口が集団の前を走る。

1 周目、先頭集団は山本・韓国・ドイツ・スイス・モンゴルの 5 人。次の周にはもう 1 人のドイツと台湾が追いつき、7 名となる。

3 周が終わり、トップは山本 1 人。それに韓国の朴が追い、2 人体制に。その後、スイスの OBERHOLZER と SCHELLING、オランダの VAN DE

女子ロード、明珍

■第2日目(8月14日)

<BMX>

個人ロードレースのスタート/フィニッシュ地点のすぐ脇のBMXコースにおいて、男女のBMXが行われた。

日本女子の出場はなく、男子は藤原海渡が出場。男子はロシア3名、ラトビア2名、日本1名の戦いとなった。

3回走ったセミファイナルでは5位・6位・3位の合計14ポイントの6位となり、決勝では、落車に見舞われ5位でフィニッシュした。1~2位はロシア、女子はリトアニアが優勝した。

男子BMX 藤原



<藤原選手のコメント>

今回のユニバーシアードのコースは日本にはないくらいジャンプも大きく、また練習時に雨が降ったりで練習時間も限られていたので苦戦しました。

予選では他国の選手もプロセクションでのクラッシュが多く、みんな限られた練習時間に苦戦しているようでした。また、インターバルが短かったため、僕は体力を温存したり他の選手の走りを見るようにしました。

今回のコースでもスタートがとても重要で、パッシングポイントはプロセクションとその後の第二バームにねらいをつけました。

決勝ではスタートに失敗してしまい、出遅れてしまいましたが他の選手が第一バームで混戦になると予測したので、プロセクションで勝負しようと考えて走りました。第二バームの入り口で4位・3位の選手と接近し、インからパスしようとしたのですが4位の選手に接触し、スリップしてしまいました。前の選手も転倒する可能性も多かったために早くレースに戻りましたが、そのままクラッシュも無く5位でゴールしました。

今回のレースではハイレベルなコースで走れたのでとても良い経験と刺激になりました。また、肝心な時にミスをしなないようにもっとレースにもなれる必要があると感じています。

■第3日目(8月15日)

<MTB クロスカントリー>

個人ロードのコースと一部重複するコースで男女のMTBが行われた。

午前8時30分、21.2km(4周)の女子7名がスタート。

1周目はエストニアのMEIERとロシアのKIRILLOVAの2人が先行。その後KIRILLOVAがMEIERを振り切り独走、そのまま2分差をつけてフィニッシュ。日本から参加した埜真賢美は残念ながら6位に終わった。

女子MTB 埜真



午前10時30分、予測ラップの設定があまく、周回数を急遽1周増やした6周31.8kmで男子12名がスタート。日本からは野田拓司が出場。

4周に渡りバトルを繰り返していたスイスのBUESSERとロシアのPRYADEINだったが、優勝はPRYADEIN。野田は9位→7位→6位と順位を上げてフィニッシュした。



男子MTB 野田

[競技結果]

第26回ユニバーシアード競技大会 (2011/8/14 中国・深圳 BMX J-1)

男子BMX

1	KLESHCHENKO Evgeniy RUS	31.654
2	YASHKIN Kirill RUS	32.587
3	BIKNIUS Tautvydas LTU	32.731
5	藤原 海渡 JPN	50.625

女子BMX (日本不出場)

1	RIMSAITE Vilma LTU	37.400
2	BESKHMELNOVA Marina RUS	39.275
3	LOMAKOVA Margarita RUS	39.797

(2011/8/15 中国・深圳 MTB J-1)

男子XC (31.8km)

1	PRYADEIN Pavel RUS	1:30:36
2	BUESSER Silvio SUI	1:32:23
3	HUDECEK Jiri CZE	1:32:53
6	野田 拓司 JPN	1:42:39

女子XC (21.2km)

1	KIRILLOVA Ksenia RUS	1:12:24
2	MEIER Maaris EST	1:14:11
3	GAY Melanie SUI	1:19:45
6	埜真 賢美 JPN	-2laps

■第4日目(8月16日)

トラックレース第1日目

4日間にわたり開催されるトラックレース、日本からは窪木一茂(福島・日本大学)、橋本凌甫(東京・日本大学)、今井一誠(東京・早稲田大学)、元砂勇雪(奈良・鹿屋体育大学)、佐々木龍(神奈川・早稲田大学)、田中まい(千葉・日本体育大学)、前田佳代乃(鹿児島・鹿屋体育大学)、近藤美子(愛知・鹿屋体育大学)、上野みなみ(青森・鹿屋体育大学)、塚越さくら(鹿児島・鹿屋体育大学)が参加。初日は男女の個人追抜競走(予選~1回戦)、女子500mTT(決勝)、男女スプリント(予選~1/8決勝)が行われた。



男子個人追抜競走、窪木

男子個人追抜競走予選には佐々木・窪木が出場したが、残念ながら2名とも1回戦には進むことができなかった。

男子個人追抜競走、佐々木



女子個人追抜競走予選には上野・田中が出場。上野7位、田中12位と発表されたが、田中の組の周回数に誤りがあり再レースとなり、微差で上野のタイムを上回り、田中7位、上野8位で2人も1回戦に進んだ。しかし7・8位ということは対戦相手が予選1・2位のため両者とも追い抜かれ、走った距離により最終順位は上野7位、田中8位となった。



女子個人追抜競走、上野



女子個人追抜競走、田中

トラックレース最初の決勝種目女子500mタイムトライアルには近藤・前田が出場。35秒台を出した前田だったが、6位に終わった。

女子500mTT、前田



女子500mTT、近藤



男子スプリント予選は橋本9位、今井14位で1/16決勝へ進出。しかし2人も敗者復活戦に廻る。今井はここで敗退するが、橋本は1/8決勝へ進出。橋本はこの後敗者復活戦に廻り、ここで敗退。

女子スプリント予選は前田9位、近藤10位で1/8決勝へ進出。その後敗者復活戦に廻り、前田は1/4決勝へ進出した。



女子スプリント、前田

■ 5日目 (8月17日)

トラックレース 2日目

この日は男女のスプリント1/2決勝までと男女個人追抜競走決勝までが行われたが、日本人選手は女子スプリントの前田のみ。その前田も1/4決勝で2本取られ、5～8位決定戦に廻り、7位が決定。

■ 6日目 (8月18日)

トラックレース 3日目

この日は男女スプリント決勝までと男子ポイントレース決勝が行われた。

16名エントリーの男子ポイントレース、日本からは窪木と元砂が出場。窪木は着々と得点を重ねるが、元砂はマイナス2ラップで降ろされる。窪木は4位→3位→5位と進み、最後の3周を独走し最終ポイント5点を重ねるが、残念ながら4位に終わる。優勝はロシアのERSHOV。



男子ポイントレース、窪木



男子ポイント、元砂

女子ポイントレース、上野(左)と塚越



■ 7日(8月19日)

トラックレース最終日

トラック最終日は男子ケイリンと女子ポイントレースが行われ、男子ケイリン(17名出走)には橋本・今井、女子ポイントレース(18名出走)には塚越・上野が出場した。

男子ケイリン1回戦、橋本5位、今井6位で敗者復活戦へ廻る。今井はここで敗退するが、橋本は2回戦へ進出。

2回戦で橋本は5位、7~12位決定戦へ廻り6位。最終的に橋本12位、今井13位が決定。

女子ポイントレースの上野、最初3回のスプリントには絡むことが出来なかったが、1人逃げ2連続5点を獲得。その後1周回アップして最終スプリントも2点を獲得して銅メダルを獲得した。なお、塚越は13位で終わった。

【競技結果】

第26回ユニバーシアード競技大会
(2011/8/16-19 中国・深圳グランドコート)

男子スプリント

- 1 DMITRIEV Denis RUS
- 2 YAKUSHEVSKIY Pavel RUS
- 3 ZHANG Miao CHN
- 10 橋本 凌甫 東京 日本大学
- 14 今井 一誠 東京 早稲田大学

男子ケイリン

- 1 ZHANG Miao CHN
- 2 YAKUSHEVSKIY Pavel RUS
- 3 VERNAY Florian FRA
- 12 橋本 凌甫 東京 日本大学

13 今井 一誠 東京 早稲田大学

男子4km個人追抜競走

- 1 SHILOV Sergei RUS 4:30.927
- 2 ERSHOV Artur RUS 4:33.128
- 3 JANG Sunjae KOR 4:26.229
- 9 窪木 一茂 福島 日本大学 4:46.242
- 15 佐々木 龍 神奈川 早稲田大 4:53.401

男子ポイントレース(30km)

- 1 ERSHOV Artur RUS 47p
- 2 OBERHOLZER Bernhard SUI 36p
- 3 CHOI Seungwoo KOR 26p
- 4 窪木 一茂 福島 日本大学 21p
- 元砂 勇雪 奈良 鹿屋体育大学 DNF

女子500mタイムトライアル

- 1 GONG Jinjie CHN 34.910
- 2 SHULIKA Lyubov UKR 34.985
- 3 BARANOVA Victoria RUS 34.996
- 6 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 35.387
- 11 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大 39.289

女子スプリント

- 1 GUO Shuang CHN
- 2 BARANOVA Victoria RUS
- 3 CUEFF Virginie FRA
- 7 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学
- 10 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大学

女子3km個人追抜競走

- 1 SEREIKAITI Viliija LUT 3:36.944
- 2 KALITOVSKA Lesya UKR 3:40.068
- 3 GALYUK Svitlana UKR 3:41.003
- 7 上野みなみ 青森 鹿屋体育大学 OVT
- 8 田中 まい 千葉 日本体育大学 OVT

女子ポイントレース(20km)

- 1 KALITOVSKA Lesya UKR 40p
- 2 CHULKOVA Anastasia RUS 37p
- 3 上野みなみ 青森 鹿屋体育大学 32p
- 13 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大学 0p

■最終日(8月20日)

男女チームタイムトライアル

女子は15kmを往復する30km。8時32分から2分おきに6チームがスタート。日本は上野・田中・明珍が4番目にスタートしたが、残念ながら5位に終わる。

男子は12.5kmを2往復する50km。10時32分から2分おきに11チームがスタート。日本は野口・窪木・吉田・佐々木がメダルを目指して2番目にスタートしたが5位が決定。これでユニバーシアード全ての自転車競技が終了した。



女子チームロードのスタート



男子チームロードのフィニッシュ

【競技結果】

第26回ユニバーシアード競技大会
(2011/8/20 中国・深圳自動車専用道路)

男子チームロードタイムトライアル(50km)

- 1 ロシア 55:10.92
- 2 ドイツ 57:55.77
- 3 大韓民国 58:34.19
- 5 日本 野口・窪木・吉田・佐々木 59:02.49

女子チームロードタイムトライアル(30km)

- 1 リトアニア 39:40.79
- 2 大韓民国 40:26.37
- 3 ドイツ 41:04.07
- 5 日本 上野・田中・明珍 43:11.47



男子ケイリン橋本(中央)と今井

2011年ジュニアトラック世界選手権大会

団体追抜競走・チームスプリントで日本新!

8月17日～21日までロシア・モスクワにおいて、ジュニアトラック世界選手権大会が開催された。遠征メンバー全員がモスクワに揃ったのは、試合前々日であった。彼らは昨年から5回のトレーニングキャンプに参加し、継続的に今大会に向けて強化されてきた強化指定選手の一部である。ジュニアアジア選手権において、最高のパフォーマンスを発揮してきた2011年強化指定選手からさらにメンバーを入れ替え、今回のチームパシュートおよびチームスプリントに臨んだ。

大会1日目、チームパシュートとチームスプリントが開催された。チームパシュートでの日本チームは2組目の出走であった。前日、前々日のトレーニングでも1000mFSにおいて58秒台、2000mSSにおいても2分11秒台を記録していたので、十分に日本記録が狙える状態であった。スタート後、順調にラップを刻み終わってみれば、4分21秒073の日本ジュニア新記録であった。ゴールまで4名で走行することができたことを思えば、まだまだ記録が狙えたメンバー構成であり、1けた台の順位を狙えるチームだったと思われる。

次にチームスプリント予選が行われた。チームパシュートの日本ジュニア新記録を見せられ、気合十分のチームスプリントメンバー。2組目バックスタートの日本チームは谷口、田中、奥村の並びでスタート。谷口の1周目がやや伸びきらないが、田中が少し挽

回し、最終奥村へ。奥村がゴールしても場内の電光掲示板が止まらず正式結果が表示されず、選手は不安な中、ピットへ戻りクールダウン。約20分後、中田監督がUCIスタッフより正式結果を聞き1分02秒128。日本ジュニア新記録であることが確認できた選手たちは満面の笑みで抱き合い喜んだ。

個人種目に関するレポートは、文字数の制限からJCFホームページにて確認していただきたい。今回の大会を通して、検車の厳しさが際立っていた。特にサドルの前後を通して水平でなければならないことや、タイムトライアルハンドルは前腕が水平になるのではなく、ハンドル自体も水平でなければならないことなど、日本国内ではあまり注目されない部分が厳しかった。(ジュニア強化育成部会支援スタッフ 佐藤 孝之)

【競技結果】 日本出場種目のみ

2011年ジュニアトラック世界選手権大会 (2011/8/17-21 ロシア・モスクワ)

男子スプリント

1	PAUL John	GBR
2	PALMA Julien	FRA
3	NIEDERLAG Max	GER
26	奥村 諭志	岡山 岡山工業高校
47	田中 誇士	静岡 伊豆総合高校
48	谷口 遼平	三重 朝明高校

男子1kmタイムトライアル

1	GARDINER Jaron	AUS	1:03.872
2	EDELIN Benjamin	FRA	1:04.374
3	BARANOSKI Matthew	USA	1:04.660
12	新山 響平	青森 八戸工高	1:05.823

16 奥村 諭志 岡山 岡山工高 1:06.001
男子ケリッ

1	PALMA Julien	FRA
2	SHURSHIN Nikita	RUS
3	VERDUGO Edgar Ismael	MEX
31	谷口 遼平	三重 朝明高校
37	奥村 諭志	岡山 岡山工業高校

男子3km個人追抜競走

1	PARK Sanghoon	KOR	3:20.263
2	SCHAFFNER Moritz	GER	3:21.270
3	LAW Jackson	AUS	3:22.530
36	黒瀬 耕平	岡山 中央大学	3:35.542

男子スクラッチ (10km)

1	SISR Frantisek	CZE
2	MKRTCHYAN Mher	ARM
3	SPANPOULOS Ioannis	GRE
新山 響平	青森 八戸工業高校	DNF

男子ポイントレース

1	WEINSTEIN Domenic	GER	37p
2	MKRTCHYAN Mher	ARM	36p
3	FRAME Alex	NZL	33p
18	久保田元気	福島 日本大学	1p

男子ホムトム

1	EWAN Caleb	AUS	24
2	IVLEV Roman	RUS	29
3	KENNETT Dylan	NZL	32
11	高士 拓也	三重 朝明高校	68

男子チームスプリント

1	Germany	59.982
2	France	1:00.136
3	Russian Federation	1:00.829
7	日本 奥村・田中・谷口	1:02.188

男子4km団体追抜競走

1	Australia	4:02.632
2	Russian Federation	4:07.342
3	New Zealand	4:05.359
11	日本 久保田・黒瀬・新山・高士	4:21.073

日本航空 Dream Skyward. JAL

世界の空でお逢いしましょう。



www.jal.co.jp

one world member
years

第24回全日本MTB選手権大会

KEIRIN 00
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

DHI



男子エリート清水



女子エリート未政

7月16～17日長野の富士見パノラマリゾートで、全日本MTB選手権大会が開催された。

16日のダウンヒル、男子エリートでは清水が予選4位から見事に逆転優勝。また、女子エリートで未政が12連覇、マスターで三山が2連覇を達成した。

17日のクロスカントリー、女子エリートの片山は8連覇を達成。また注目の男子エリートは、序盤平野が積極的に展開するが、予想通り山本幸平が見事4連覇を達成した。



男子ジュニア九島



男子マスター三山

【競技結果】

第24回全日本MTB選手権大会
(2011/7/16-17 長野/富士見)

DHI 男子U19

- 1 清水 一輝 愛知 AKI Fact. 3:38.291
- 2 井手川直樹 広島 Devinci 3:39.278
- 3 青木 卓也 東京 GIANT 3:39.498



DHI 男子ジュニア

- 1 九島 勇気 神奈川 KHS 3:50.701
- 2 秋吉 圭 東京 カガワム 3:57.102
- 3 倉林 快明 東京 Monster 4:13.836



DHI 男子マスター

- 1 三山 孝幸 石川 FRS 3:58.075
- 2 白井 了史 神奈川 MARCH 3:59.022
- 3 館 正訓 東京 body arch. 4:01.411



トラック・アジアカップ2011タイラウンド日本代表選手団

大会名 ACCトラック・アジアカップ2011タイラウンド

開催場所 タイ王国・バンコク

大会期間 2011年9月10日～11日

派遣期間 2011年9月7日～12日

代表選手団

- 監督 坂本 勉 (ナショナルコーチ)
 コーチ 吉井 功治 (JCF強化コーチ)
 村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)
 メカニック 森 昭雄 (JCF強化スタッフ)
 マッサージ 柳 浩史 (JCF強化スタッフ)
 選手 窪木 一茂 (福島・日本大学)
 加瀬加奈子 (新潟・日本競輪学校)
 渡辺ゆかり (山梨・日本競輪学校)
 前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)
 上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)

DHI 女子U19

- 1 末政 実緒 兵庫 Funfancy 4:14.671
- 2 中村 美佳 福井 MSC 4:20.515
- 3 中川 弘佳 大阪 RINGO 4:24.417



XCO 男子U19 (28km)

- 1 山本 幸平 北海道 BS アンカー 1:32:32.70
- 2 平野 星矢 長野 BS アンカー 1:33:15.45
- 3 小野寺 健 北海道 Specialized 1:35:24.78



XCO 男子U23 (20km)

- 1 合田 啓祐 香川 Specialized 1:13:13.65
- 2 野田 拓司 佐賀 FFC 1:14:29.61
- 3 園部 来夢 東京 RMB 1:20:23.91



XCO 男子ジュニア (16km)

- 1 沢田 時 滋賀 HARO 57:50.57
- 2 前田 公平 東京 HARO 59:23.78
- 3 後呂 有哉 愛知 岩井商会 1:02:22.37



XCO 男子マスター (16km)

- 1 山本 朋貴 滋賀 ストラダ R. 58:04.45
- 2 北島 篤志 東京 ckirin 1:01:05.26
- 3 平井 啓資 東京 UNS 1:01:24.70



XCO 女子U19 (20km)

- 1 片山 梨絵 神奈川 Specialized 1:21:59.92
- 2 中込由香里 長野 SY-Nak 1:23:59.67
- 3 矢沢みつみ 山梨 RMB 1:25:20.15



2011年MTB世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2011年マウンテンバイク世界選手権大会

開催場所 スイス・シャンペリー

大会期間 2011年8月31日～9月4日

派遣期間 2011年8月28日～9月6日

代表選手団

- 監督 小笠原崇裕 (JCF MTB強化コーチ)
 メカニック 阿部 吉邦 (JCF MTB強化スタッフ)
 マッサージ ピンセント・フラナガン (JCF MTB強化支援スタッフ)
 選手 < XCO >

- 男子U19 山本 幸平 (北海道・チームプリヂストン・アンカー)
 平野 星矢 (長野・チームプリヂストン・アンカー)
 山本 和弘 (北海道・キャノンデールレーシングチーム)
 小野寺 健 (北海道・チームスペシャライズド)

女子U19 片山 梨絵 (神奈川・SPECIALIZED)

男子U23 野田 拓司 (佐賀・久留米大学 FFC)

男子ジュニア 沢田 時 (滋賀・HARO/ENDLESS/Pro Ride)

< DHI >

男子マスター 清水 一輝 (愛知・アキ・ファクトリー・チーム)

女子U19 末政 実緒 (兵庫・FUNFANCY/INTENSE)

XCO



男子エリートのスタート



女子エリートのスタート



男子エリート、序盤先行する平野とそれを追う山本



女子エリート片山

男子エリート、独走する山本



男子ジュニア、独走する沢田



男子 U23、独走する合田



男子マスター、山本



2011年ロード世界選手権自転車競技大会代表選手団（追加）

大会名 2011年ロード世界選手権自転車競技大会

開催場所 デンマーク・コペンハーゲン

大会期間 2011年9月19日～25日

派遣期間 2011年9月17日～27日

代表選手団

マッサー 宮島 正典（JCFロード競技部会支援スタッフ）

選手 <ジュニア男子>

清水 太己（東京・ブリヂストン・エスポワール）

内野 直也（埼玉・湘南ベルマーレ）

西村 大輝（東京・昭和第一学園高校）

ロンドンサリー・サイクルクラシック

落車で上位入賞ならず



2011年8月14日 9:00 スタート
曇りのち晴れ気温 20度

ロンドン中心部から郊外のサリー州で開催されたロンドン・サリーサイクルクラシックレースは、2012年に開催されるロンドンオリンピックのテストイベントとして開催された。

エリート男子カテゴリーだけの開催となった今大会には、オリンピックで優勝を狙う強豪国を含む20ヶ国の他プロチームが参加し、139名がスタート。オリンピックに賭ける意気込みが感じられた。

天候の不安定なロンドンだが、レース当日は曇りのち晴れと絶好のコンディションのなか朝9時にスタート。オリンピック本番は250kmで行われる予定だが、今回はエリート女子が走る距離の140kmで行われた。

ロンドンの中心モールとバックingham宮殿を結ぶポイントがスタート・ゴール地点で、スタートから往路の周回コースに入るまでが72.2km、周回コース(15.7km)を2周回し復路は39.7km走りゴール。

市内を抜けるまでは集団ペースも緩やかなレース展開であったが、10km地点でメイン集団からCleberon Weber (Brazil)、Kristian House (Rapha Condor)、Tom Murray (Sigma Sport)、Liam Holohan (Raleigh)の4選手が抜け出し、集団とのタイム差1分。

郊外に出て緩やかに登る23.8km地点に大きな公園があり、中央に噴水のある大きな池の両サイドを選手が通過して行く。逃けているトップ4名とのタイム差は4分。途中の街々を通

過する際、道幅が狭いコーナーが多くロータリーもあり、集団の中では気が抜けないコース状況だ。

56.4km 地点 最初の山岳ポイント、最大5%ほどの緩い上り坂2.2kmを登り、周回コースに入る

72.2km 地点では、逃けている4名とのタイム差6分30秒と大きく開くが、周回コースに入るとイギリス代表チームの他プロチームが協力して、メイン集団のペースを上げる。

周回コースの2.5kmの上り坂は、7%前後と比較的緩くアウターでも登れる。2周目の山岳ポイント終了後、逃げていたトップ4名の選手が吸収されて復路では再び大集団となる。

ペースが上がった2周目の登り坂で福島が集団から遅れる。1周目の山岳ポイントを過ぎて下り坂に入った所で畑中が落車、走りだすのに時間がかかり集団から遅れ、2周目の山岳ポイントでタイムアウトになる。

ラスト5km、ゴールスプリントに持ちこもうと必死のスプリンターがひしめく集団前方でイギリスチームのラインについていた土井は、Cavendishにラインから排除するべく腕をつかまれ押されてバランスを崩し転倒。ラスト4kmでは今度は宮澤が同じく

Cavendishに押圧され落車。二人とも走りだすが集団から大きく遅れゴール。残った新城も落車で集団から遅れ31位。土井86位、宮澤120位、福島121位でゴール。地元イギリスのCavendishが激戦のゴールスプリントを制し優勝。

<総括>

日本チームは落車により上位入賞こそ出来なかったが、ラスト10kmからは常にメイン集団の前方で、ゴールスプリントに備えたレースを展開した宮澤、土井、新城選手の走りはオリンピック本番での活躍に期待でき、選手も確実に手ごたえを感じていた。

<コース状況は>

市街地を通る際はコーナーが多く道幅が狭くロータリーも多い為、気の抜けないテクニカルなコースであった。

男子エリート本番では250kmで山岳ポイント(ボックスヒル)を9周回するので、今回のレース展開のようにスプリンターが絶対優位とも言えないコースであった。

(強化コーチ 高橋 松吉)

【競技結果】

ロンドンサリーサイクルクラシック (UCI ヨーロッパツアー 1.2)
(2011/8/14 イギリス・ロンドン)

男子個人ロードレース (140.3km)

1	CAVENDISH Mark GBR	3:18:11
2	MODOLO Sacha ITA	3:18:11
3	DUMOULIN Samuel FRA	3:18:11
31	新城 幸也 JPCA ヨーロッパカー	3:18:53
86	土井 雪広 山形 スキル・シマノ	3:21:21
120	宮澤 崇史 長野 ファルネーゼピニ	3:25:32
121	福島 晋一 JPCA トレンガヌプロ	3:28:57
	畑中 勇介 東京 シマノレーシング	DNF

ロンドンサリーサイクルクラシック日本代表選手団

大会名	ロンドンサリーサイクルクラシック (UCI ヨーロッパツアー 1.2)
開催場所	イギリス・ロンドン
大会期間	2011年8月14日
派遣期間	2011年8月11日～16日
代表選手団	
監督	高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)
総務	貝塚 直子 (JCF 事務局)
選手	福島 晋一 (JPCA・トレンガヌ プロアジア サイクリングチーム) 宮澤 崇史 (長野・ファルネーゼピニ・ネーリソットーリ) 新城 幸也 (JPCA・チームヨーロッパカー) 土井 雪広 (山形・スキル・シマノ) 畑中 勇介 (東京・シマノレーシングチーム)

平成 23 年度全国高等学校総合体育大会

昭和第一学園が初優勝!



男子ケイリン



個人ロードレース

8月9日から12日の4日間、秋田県を舞台に平成23年度全国高校総合体育大会、秩父宮記念杯第62回全国高等学校対抗自転車競技選手権大会が開催された。

8月9日から11日の3日間は、美郷町自転車競技場(周長333m)でトラック競技が開催され、連日天候に恵まれた中、好記録ラッシュの大会となった。スプリントでは、予選で橋本瑠偉(龍谷)・野原雅也(春江工)の2名が大会新を更新した。野原は手堅いレースを見せスプリントを制した。3km個人追抜予選でも橋本英也(岐南工)が3分30秒937で記録を更新し圧倒的な強さで栄冠に輝いた。団体種目では、4km団体追抜で常に上位入賞を果たしている岐南工が予選で4分26秒943で大会記録を更新し、決勝でも安定した走行で見事優勝を果たした。チームスプリントで

は、岡山工・岐阜第一の2校が予選で記録更新し、さらに決勝では岡山工は1分04秒455という驚異的なタイムを叩き出し優勝、会場を大いに沸かせた。

8月12日、最終日の個人ロードレースは、田沢湖を4周回後、スキー場への長い登りをゴールとする特設コースで登りでの激しいデットヒートを抜け出て大野宏樹(広島城北)が制した。

学校対抗では、トラック競技終了時まで、僅差で岐南工がリードしており、上位校の優勝争いは最終日のロード競技に持ち越されたが、昭和第一が逆転し1点差で念願の初優勝を果たした。(早川 誠二)

【競技結果】

平成 23 年度全国高等学校総合体育大会
(2011/8/9-12 秋田・美郷/田沢湖)

スプリント

1	野原 雅也	福井 春江工	10.844
2	村田 圭	山梨 富士学苑	11.197

3 松本 貴治 愛媛 松山聖陵 10.937

1km タムトライアル

1	伊藤 邦和	東京 昭和一学	1:07.146
2	川口 聖二	岐阜 岐阜一	1:07.419
3	新山 響平	青森 八戸工	1:07.614

ケイリン

1	奥村 諭志	岡山 岡山工
2	谷口 遼平	三重 朝明
3	小酒 大勇	福島 平工

3km 個人追抜競走

1	橋本 英也	岐阜 岐南工	3:33.588
2	伊藤 和輝	東京 昭和一学	3:37.244
3	原田 裕成	岡山 水島工	3:36.373

4km 速度競走競走

1	堀 兼壽	岐阜 岐阜一
2	大久保隆矢	福岡 祐誠
3	高土 拓也	三重 朝明

スクラッチ (8km)

1	寺崎 浩平	福井 科学技術
2	矢羽々正臣	岩手 紫波総合
3	有馬 尚輝	熊本 秀岳館

ポイントレース (24km)

1	入佐 直希	鹿児島 南大隅	19p
2	中村 隼大	岐阜 岐南工	16p
3	安原 大生	奈良 榛生昇陽	14p

チームスプリント

1	岡山工	多田・奥村・松岡	1:04.455
2	岐阜一	長尾・森川・川口	1:05.195
3	大曲農	門脇・高橋・進藤	1:05.556

4km 団体追抜競走

1	岐南工	中村・橋本・相馬・渡辺	4:27.539
2	昭和一	伊藤邦・鈴木・伊藤和・西村	4:31.001
3	春江工	野原・秋田・廣瀬・末本	4:36.267

個人ロードレース (95.2km)

1	大野 宏樹	広島 広島城北	2:13:18.1
2	徳田 優	京都 北桑田	2:13:23.5
3	原田 裕成	岡山 水島工	2:13:32.6

総合得点

1	昭和第一学園	東京	32
2	岐南工業高校	岐阜	31
3	岐阜第一高校	岐阜	30

女子エキシビジョンケイリン

1	三宅 玲奈	岡山 岡山工
2	小城 千奈	福岡 祐誠
3	山本 レナ	京都 北桑田

女子エキシビジョンスクラッチ

1	三宅 玲奈	岡山 岡山工
2	小城 千奈	福岡 祐誠
3	山本 レナ	京都 北桑田

女子エキシビジョンチームスプリント

1	三宅 玲奈・小城 千奈	50.692
2	細田 愛未・黒田 彩夏	52.324
3	山本めぐみ・小川 美咲	53.373

女子エキシビジョン団体追抜競走

1	青木・神庭・山本	3:57.761
2	斎藤・江藤・森重	4:06.894

2011年BMX世界選手権大会

チャンピオンクラス、決勝進出ならず。



デンマークのコペンハーゲンで2011UCI BMX世界選手権大会、初日は14歳までの年齢別クラスのレースが開催され日本からは25名の選手が出場した。12歳ガールズクラスでは日本の島山が優勝、榊原が3位に入った。島山の世界選優勝は2009年のオーストラリア大会以来の2年ぶり2度目になる。2008、2010年で優勝している榊原の成績を合わせると日本が同じ年代で4連覇をしたことになる。そのほか13歳ボーイズで山口大地が2位に入る活躍を見せたほか、合計6名の選手が決勝へと進出した。

大会2日目、15歳以上の年齢別クラスには11名の日本人選手が出場した。15歳女子では瀬古が決勝まで駒を進め、最終的に2位でレースを終えた。同じく15歳男子でも榊原が決勝に進出し4位に入りこちらも健闘した。年齢別クラスの中でも15歳や16歳はチャンピオンシップカテゴリーのジュニアを見据えた年齢だけに、将来のトップ選手が育つカテゴリーとして認識されている。

いよいよチャンピオンシップクラスの日程に入り、29日はタイムトライアルが開催された。本戦に出場するための予選も兼ねるタイムトライアルは今年から個別に表彰が行われ、上位16名(女子ジュニア)の選手が進出するスーパーファイナルの優勝者は、タイムトライアル世界王者としてレインボージャージを着用することになる。日本からは男子エリートに5名、女子エリート1名、男子ジュニアに2

名の合計が出場。男女エリートは惜しくも予選通過ラインに届かなかったものの、男子ジュニア2名が64位以内に入り本戦への進出を決めた。さらに男子ジュニアの長迫は12位のタイムでスーパーファイナルへと進出。スーパーファイナルでは1本目のタイムを上回ることにはできず15位に終わって、30日の本戦に向けて良好なスタートを切った。

大会4日目を迎え、チャンピオンシップクラスの本戦がトーナメント形式で行われた。前日に行われたタイムトライアルから進出した日本人選手は、男子ジュニアの長迫と吉村の2名。トーナメントの初戦は8人一組のヒートを3回走った合計で争われ長迫は総合3位で1/4ファイナル進出を決めた。吉村も健闘したが最終ヒートでコースアウトし総合6位で敗退した。長迫は1/4ファイナルで4位争いを展開したものの、最終バームで転倒し準決勝進出はならなかった。

最終日を迎え、クルーザーの年齢別クラスが開催された。車輪が大きいクルーザータイプのBMXは、安定性に優れることからアマチュアのライダーに根強い人気がある。20インチではひとくくりにされる30歳以上のクラスでも細かなクラス設定がされることから、高い年齢層の参加者も多く、全年齢で楽しめるBMX競技を象徴するカテゴリーともいえる。昨年まで行われていたチャンピオンシップのクルーザークラスは、タイムトライアルの表彰がはじまったことで廃止され

た。日本からは12歳以下と13&14歳、35~39歳、40~44歳の各クラスに7名の選手がエントリーした。12歳以下ボーイズに出場した北岡大志と古野慧が予選から1/4ファイナル、準決勝と上位争いに絡みながら決勝に進出。決勝では古野がスタート直後に転倒するアクシデントがあったものの、それぞれ4位と7位に入賞を果たした。(猪俣 健一)

【競技結果】

2011年BMX世界選手権大会
(2011/7/27-31 デンマーク・コペンハーゲン)

男子エリート

1	DAUDET Joris	FRA	
2	STROMBERGS Maris	LAT	
3	WILLERS Marc	NZL	
80	三瓶 将廣	JPN	予選敗退
100	松下 翼	JPN	予選敗退
104	阪本 章史	JPN	予選敗退
111	高橋 堅太	JPN	予選敗退
126	菊池 雄	JPN	予選敗退

女子エリート

1	PAJON Mariana	COL	
2	WALKER Sarah	NZL	
3	POTTIER Magalie	FRA	
34	三輪 郁佳	JPN	予選敗退

男子ジュニア

1	CAMPO Alfredo	ECU	
2	WOODCOCK Trent	NZL	
3	DUPIRE Antonin	FRA	
31	長迫 吉拓	JPN	1/4 決勝敗退
43	吉村樹希敢	JPN	1/8 決勝敗退

女子ジュニア(日本不出場)

1	McLEOD Melinda	AUS	
2	TAYLOR Abbie	GBR	
3	CRAIN Brooke	USA	

第28回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会

シマノの畑中が優勝!

【競技結果】

第28回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会
(2011/8/28 三重・鈴鹿サーキット)

1	畑中 勇介	東京 シマノ	1:16:21.33
2	盛 一大	愛知 愛三工業	1:16:21.55
3	Jeremy Roy	FRA FDJ	1:16:23.90



ツール・ド・ラビティビ 2011

個人総合最上位は内野の 29 位

第 1 ステージ (7月 19 日)

今回の参加は、フランス・カナダ・アメリカ・ニュージーランド・日本・タイ・カザフスタン・グアテマラ・メキシコの 9 カ国のナショナルチームにカナダ・アメリカのクラブチームを加えた 23 チーム。

第 1 ステージは、Preissac をスタートし Amos までの 86.3km を走り、Amos の街中で 5.3km の周回コースを 5 周する合計 112.8km のコース。

午後 4 時 25 分にスタート、Amos に入る手前で 8 名のエスケープが決まり、その中には日本のメンバーは入っていなかった。周回コースに入りメイン集団はタイム差を縮めるも結局追いつくことは出来ず 8 名のゴール勝負となり、ニュージーランドが 1・2 位でフィニッシュした。第 1 グループから 18 秒遅れてメイン集団も大集団でフィニッシュし、この集団の 2 番手で西村がフィニッシュし第 10 位となった。

第 2 ステージ (7月 20 日)

今日は、Macamic をスタートし Amos までの 81.9km を走り、昨日と同じように Amos で周回コースを 5 周する合計 108.4km のコース。

午後 4 時 45 分にスタートし、Amos に向かうまでは日本チームをはじめ積極的にエスケープを試みる選手がいたが成功せず、勝負は約 100 名のゴール勝負となった。最終コーナー先頭付近にいた西村だが、トップには僅かに届かず 5 位でフィニッシュし、各ステージ 6 位までに与えられるネイションズポイントを獲得した。

第 3 ステージ (7月 21 日午前)

今日は、午前中に個人タイムトライアル、午後個人ロードレースが行われた。

個人タイムトライアルのコースは、St-Felix-de-Dalquier をスタートし Amos までの 12.4km のコース。午前 8 時 45 分に 1 番目の選手がスタートし、1 分間隔で総合成績の下の順位から順番に走る。個人タイムトライアル不得意の日本がどれだけトップとの差を縮められるかがポイントになる。

結果として、日本チームで最高の成績はトップのアメリカの選手と 1 分 07 秒差の第 32 位になった内野だった。

第 4 ステージ (7月 21 日午後)

今日は、Malartic の街を周回する 52.7km のコース。距離が短く逃げが決まりにくくゴール勝負が予想された。午前中の曇り空もスタート前には快晴

となり、日差しがあるのでとても暑くなった。

午後 6 時に予定通りスタート。突然の大雨に見舞われが 10 分ほどで上がり、その後は快晴の中でレースが行われた。レースは予想通り何度も逃げを打つ選手がいたがどれも決まらず大集団のままゴール勝負となった。結果は、フランスチームが 1 位から 3 位までを独占した。日本チームでは西村の 9 位が最高だったが、連日ひと桁の順位を獲得している西村の健闘が光った。

第 5 ステージ (7月 22 日)

今日は、Rouyn-Noranda をスタートし Amos までの 98.8km を走り、Amos で周回コースを 4 周する合計 120km のコース。ここまで個人総合成績で日本チームトップは内野の 32 位で、総合 20 位以内に与えられるネイションズポイントを彼が獲得するには、距離の長い今日のレースで何とか逃げを決め上位とのタイム差を縮めたいところだ。

午後 4 時 15 分にスタートし、Amos に向かうまでは何度も積極的にエスケープを試みる選手がいた。日本チームも清水をはじめ久保田や徳田が逃げ集団に入ったが決まらなかった。その中で、内野はカザフスタンの選手と逃げた時にその選手と接触して落車するというアクシデントがあったが何とか復帰した。結局、Amos の周回コースには集団のまま入り、勝負はまた約 100 名のゴール勝負となった。そのゴールシーンは昨日と同じで、フランスチームの 3 名が表彰台を独占した。西村も昨日と同じ 9 位となった。

第 6 ステージ (7月 23 日)

今日は、Amos の市街地で 1 周 11km の周回コースを 9 周する 99km のコース。午後 5 時にスタートし、今日も最初から積極的にエスケープを試みる選手がいた。

日本チームも 4 周目以降、面手や久保田が積極的な動きを見せたが、7 周目に清水がメキシコとカザフスタンの選手とともに 3 名で逃げ出し、8 周目にはメイン集団と最大 35 秒の差を付けたが最終周につかまり、結局また今日も勝負は約 80 名のゴール勝負となった。今日もフランスが 1 位と 3 位となり、やはり強さが見られた。そして、連日ゴール勝負で力を発揮していた西村は、今日は 38 位と振るわなかった。

第 7 ステージ (7月 24 日)

今日は、Barraue をスタートし Amos までの 51.4km を走り、Amos の周回コースを 8 周する合計 93.8km のコース。内野はネイションズポイントを獲得するためにも、今日は何としても逃げを決めたいところだ。

午後 3 時にスタートし、Amos に向かって 30km ほど走ったところで西村がパンクし何とか復帰したところ、内野がカザフスタンとアメリカの選手と共に逃げを決め、Amos に入るところまで約 20km 逃げたがタイム差がそれほど開かなかったため、Amos の周回コースに入ったところで集団につかまった。周回コースに入ってから、今度は徳田が逃げ集団に入り 2 周ほど逃げたが決まらなかった。勝負は、ラスト 1 周で逃げ出したアメリカの選手 2 名がそのまま逃げきり、3 位以下はゴール勝負となった。日本チームでは、西村の第 16 位が最高だった。

全ての競技が終わり、20 時から表彰式が行われた。優秀な成績を収めた選手やチームの表彰以外に各チームの優秀選手の表彰があり、日本チームでは個人総合成績で一番良かった内野が表彰された。(JCF ジュニア強化育成部会 部会長 坂井田 米治)

【競技結果】

ツール・ド・ラビティビ 2011 (UCIMJ-2Ncup)
(2011/7/19-24 カザフ・ケック)

個人総合成績

1	ORAM James	NZL	13:01:23
2	SMITH Dion	NZL	13:01:41
3	WAIT-MOLYNEUX Colby	USA	13:01:46
29	内野 直也	埼玉 湘南パルマル	13:02:51
55	清水 太己	東京 BS エスポワール	13:03:39
60	西村 大輝	東京 昭和一学	13:03:45
62	久保田元気	福島 日本大学	13:03:46
72	面手 利輝	神奈川 明治大学	13:04:52
84	徳田 優	京都 北桑田高校	13:18:15

団体総合成績

1	Etats-Unis	USA	39:05:52
2	Nouvelle-Zélande	NZL	39:05:56
3	Canada	CAN	39:07:03
11	日本	JPN	39:09:38

第 1 ステージ (112.8km)

1	ORAM James	NZL	2:28:28
2	SMITH Dion	NZL	2:28:28
3	SEMYONOV Roman	KAZ	2:28:28
10	西村 大輝	東京 昭和一学	2:48:46
36	面手 利輝	神奈川 明治大学	2:48:46
47	清水 太己	東京 BS エスポワール	2:48:46
50	内野 直也	埼玉 湘南パルマル	2:48:46
95	徳田 優	京都 北桑田高校	2:48:46

98 久保田元気 福島 日本大学 2:48:46

第2ステージ (108.4 km)

1 LaBERGE James USA 2:15:13
 2 SANIKWATHI Thanawat THA 2:15:13
 3 BOULANGER Thibaut FRA 2:15:13
 5 西村 大輝 東京 昭和第一学 2:15:13
 40 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 2:15:13
 52 面手 利輝 神奈川 明治大学 2:15:13
 60 徳田 優 京都 北桑田高校 2:15:13
 73 内野 直也 埼玉 湘南ハ°ルマレ 2:15:13
 115 久保田元気 福島 日本大学 2:15:13

第3ステージ (12.4 km)

1 WAIT-MOLYNEUX Colby USA 15:09.040
 2 REIDENBACH Michael USA 15:13.010
 3 JORGENSON Kristopher USA 15:13.770
 32 内野 直也 埼玉 湘南ハ°ルマレ 16:16.960
 56 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 16:43.500
 60 西村 大輝 東京 昭和第一学 16:48.580
 80 久保田元気 福島 日本大学 17:09.780
 86 徳田 優 京都 北桑田高 17:21.410
 90 面手 利輝 神奈川 明治大学 17:24.630

第4ステージ (52.7 km)

1 BOULANGER Thibaut FRA 1:08:25
 2 MOREL Anthony FRA 1:08:25
 3 GOULOT Kevin FRA 1:08:25
 9 西村 大輝 東京 昭和第一学 1:08:25
 46 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 1:08:25
 49 内野 直也 埼玉 湘南ハ°ルマレ 1:08:25
 99 久保田元気 福島 日本大学 1:08:25
 111 徳田 優 京都 北桑田高校 1:08:25
 121 面手 利輝 神奈川 明治大学 1:08:57

第5ステージ (120.0 km)

1 BOULANGER Thibaut FRA 2:34:21
 2 GOULOT Kevin FRA 2:34:21
 3 MOREL Anthony FRA 2:34:21
 9 西村 大輝 東京 昭和第一学 2:34:21
 47 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 2:34:21
 68 久保田元気 福島 日本大学 2:34:21
 72 内野 直也 埼玉 湘南ハ°ルマレ 2:34:21
 83 面手 利輝 神奈川 明治大学 2:34:21
 89 徳田 優 京都 北桑田高校 2:34:21

第6ステージ (99.0 km)

1 BOULANGER Thibaut FRA 2:13:43
 2 DARVILLE Alex USA 2:13:43
 3 MOREL Anthony FRA 2:13:43
 26 内野 直也 埼玉 湘南ハ°ルマレ 2:13:43
 28 面手 利輝 神奈川 明治大学 2:13:43
 38 西村 大輝 東京 昭和第一学 2:13:43
 54 久保田元気 福島 日本大学 2:13:43
 72 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 2:13:43
 95 徳田 優 京都 北桑田高校 2:28:00

第7ステージ (93.8 km)

1 CHALMERS Jos USA 2:06:05
 2 VERMEULEN Alexey USA 2:06:05
 3 DARVILLE Alex USA 2:06:09
 16 西村 大輝 東京 昭和第一学 2:06:09
 45 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 2:06:09
 61 内野 直也 埼玉 湘南ハ°ルマレ 2:06:09
 72 久保田元気 福島 日本大学 2:06:09
 82 徳田 優 京都 北桑田高校 2:06:09
 104 面手 利輝 神奈川 明治大学 2:06:28

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

**2011日本障害者自転車競技大会
日本パラサイクリング選手権(トラック)
(2011/7/23-24 京都・向日町競輪場)****200m フライイングタイムトライアル男子 B クラス**

1 大城 竜之・伊藤 保文 10.770

1km タイムトライアル男子 B クラス

1 大城 竜之・伊藤 保文 1:06.230

1km タイムトライアル男子 C5 クラス

1 阿部 学宏 静岡 1:17.084
 2 佐久間明夫 東京 1:23.017

1km タイムトライアル男子 C4 クラス

1 石井 雅史 神奈川 1:13.280
 2 多以良泉己 神奈川 1:18.339
 3 溝口 智徳 愛知 1:32.798

1km タイムトライアル男子 C3 クラス

1 藤田 征樹 茨城 1:17.505

1km タイムトライアル男子 C2 クラス

1 田中 哲也 北海道 1:37.144

1km タイムトライアル男子 C1 クラス

1 西田 清司 愛知 1:46.560

1km タイムトライアル女子 B クラス

1 柏木 佳子・上北 綾乃 1:45.892

3km 個人追抜競走 男子 C3 クラス

1 藤田 征樹 茨城 3:57.50

3km 個人追抜競走 男子 C2 クラス

1 田中 哲也 北海道 5:10.58

3km 個人追抜競走 女子 B クラス

1 柏木 佳子・上北 綾乃 5:14.710

4km 個人追抜競走 男子 C5 クラス

1 阿部 学宏 静岡 5:29.88

4km 個人追抜競走 男子 C4 クラス

1 石井 雅史 神奈川 5:17.92
 2 溝口 智徳 愛知 6:38.08

**2011年UCIサイクリングワールドカップ 東京大会
(2011/7/24 東京・江東区)****サイクリング**

1 SNA Gent I BEL
Baudu Christoph/Martens Peter
 2 VCE Dorlisheim FRA
Meyer Benjamin/Rieb Francois
 3 RSV 大阪 JPN
村上 裕亮・合田 昌司
 4 チーム7 JPN
森 茂史・都築 勝巳
 5 Kuramae JPN
藤田 洋介・時倉 宗大
 6 C.C.K サンデューズ K JPN
手島 敏光・現王園仁志
 7 VfH 東京 II JPN
平野 賢・田中 識史
 8 VfH 東京 I JPN
木下 直也・大野 和俊

**第24回ドイツ・カールスバルク (MJ-2Ncup)
(2011/8/11-14 ドイツ・ザールラント)****個人総合成績**

1 LE CUISINIER Pierre-Henri FRA 9:41:04
 2 LUND Rasmus DEN 9:41:19
 3 SLIK Ivac NED 9:41:21
 49 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 9:45:09
 52 小橋 勇利 愛媛 松山工業高 9:45:43
 81 久保田元気 福島 日本大学 10:23:15

団体総合成績

1 フランス 29:04.26
 2 デンマーク 29:04.34
 3 オランダ 29:05.22
 16 日本 29:47.22

第1ステージ (89.3km)

1 CONTI Valerio ITA 2:04:23
 2 LUND Rasmus DEN 2:04:23
 3 NIELSEN Magnus Cort DEN 2:04:24
 46 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 2:04:32
 72 小橋 勇利 愛媛 松山工業高 2:04:53
 94 山崎 航 石川 Eurasia 2:17:20
 98 面手 利輝 神奈川 明治大学 2:17:20
 109 久保田元気 福島 日本大学 2:23:53
 114 鍵本 大地 広島 京都産業大 2:28:09

第2ステージ (86.4km)

1 LE CUISINIER Pierre-Henri FRA 2:00:08
 2 LUND Rasmus DEN 2:00:08
 3 SLIK Ivac NED 2:00:10
 59 小橋 勇利 愛媛 松山工業高 2:01:45
 84 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 2:01:45
 90 鍵本 大地 広島 京都産業大 2:01:56
 99 久保田元気 福島 日本大学 2:02:02
 104 面手 利輝 神奈川 明治大学 2:05:51
 107 山崎 航 石川 Eurasia 2:12:30

第3-1ステージ (11.2km)

1 LE CUISINIER Pierre-Henri FRA 13:51.71
 2 BROCKHOFF Jan GER 14:04.41
 3 SLIK Ivac NED 14:06.34
 71 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 15:16.92
 92 久保田元気 福島 日本大学 15:46.69
 99 山崎 航 石川 Eurasia 16:10.45
 100 小橋 勇利 愛媛 松山工高 16:16.85
 101 面手 利輝 神奈川 明治大学 16:18.25
 103 鍵本 大地 広島 京都産大 16:35.68

第3-2ステージ (81.9km)

1 ANDERSEN Soren Kragh DEN 2:00:57
 2 SENECHAL Florian FRA 2:00:57
 3 GODRIE Stan NED 2:01:07
 46 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 2:01:07
 58 小橋 勇利 愛媛 松山工業高 2:01:07
 97 鍵本 大地 広島 京都産業大 2:14:06
 98 山崎 航 石川 Eurasia 2:14:06
 101 久保田元気 福島 日本大学 2:14:06
 105 面手 利輝 神奈川 明治大学 2:14:06

第4ステージ (134.7km)

1 BIEDERMANN Daniel AUT 3:21:42
 2 SLIK Ivac NED 3:21:42
 3 LUND Rasmus DEN 3:21:42
 35 小橋 勇利 愛媛 松山工業高 3:21:42
 45 清水 太己 東京 BS イスホ°ワール 3:22:29
 72 久保田元気 福島 日本大学 3:27:28
 鍵本 大地 広島 京都産業大 DNF
 面手 利輝 神奈川 明治大学 DNF
 山崎 航 石川 Eurasia DNF

加盟団体だより (11)

宮城県自転車競技連盟

連盟事務局：

宮城県大崎市三本木坂本字青山11
0229-52-3173、090-1370-7866 (早坂)
<http://www.cycling.miyagi-taikyo.or.jp/index.html>

今後の大会予定：

宮城県民大会(だれでも参加できます) 10月16日予定
サイクルフェスティバル 10月23日予定
クリテリウムみやぎ 11月6日予定

活動：

宮城県自転車競技連盟は審判員数約60名と多く、その中には、星支部長はじめ多数の日本競輪選手会宮城支部の選手も協力してくれています。年齢構成も老若男女が協力し合って、大会を盛り上げるべく活動しています。3.11の大震災では幸い一人の犠牲者も出ず、復興に向けてみんなが頑張っています。

宮城県自転車競技場は、2000年の完成時に日本で初めてセイコータイムシステムの電子計時システムを開発・導入し、2001年に『新世紀みやぎ国体』を開催したすばらしい競技場です。県内の大会ではいつも電子計時装置を使っているので、選手も大変喜んでくれます。

全日本の大会開催は、『全日本選手権トラックレース』を4度開催してきました。

8月に、念願のホームページを立ち上げる事が出来ました。

今後はいろいろな情報をどんどんアップしていきたいと思っておりますので、ぜひ見に来て下さい。(早坂)



広報委員会から 広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内

平成14年度より「シクリスムエコー」個別郵送ご希望の方には、郵送料の一部をご負担いただいております。平成23年度につきましても、ご負担をお願いすることになりました。皆様のご理解をお願い申し上げます。なお23年度の発行回数は10回を予定しております。また、勝手ながら年度途中でのお申し込みにつきましても、4月号からの1年分とさせていただきます。

平成23年度 1,200円 (1年分)

お近くのゆうちょ銀行または郵便局より振替払込をお願いいたします。払込先：「シクリスムエコー 00140-4-152006」
各加盟団体(都道府県車連)事務局や一部自転車関連施設にもこれまで通り送付いたしますので、ご来訪できる方はご利用ください。
また、これまで通り、JCFホームページにも掲載いたしますのでご覧ください。< <http://www.jcf.or.jp> >
なお、JCF維持会員(個人1万円・法人5万円/年間)の皆様へは無料でお送りいたします。

9月中旬～10月の大会

期 日	大 会 名	種 目	場 所
9月16日～19日	ツール・ド・北海道2011	RR	北海道/道東～道央
9月17日～19日	日本スポーツマスターズ2011自転車競技会	TR・RR	石川/内灘・津幡
9月19日～25日	2011年ロード世界選手権自転車競技大会(EL/U23/JR)	RR	デンマーク/コペンハーゲン
9月25日	第45回JBCF経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ	RR	静岡/日本CSC
10月1日～2日	第43回全日本学生室内自転車競技選手権大会	Indoor	東京/東京工業大学
10月5日～9日	第66回国民体育大会自転車競技会	TR・RR	山口/防府・美祢・長門
10月14日～16日	第14回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	TR	静岡/日本CSC
10月21日～23日	ACCトラック・アジアカップ2011マレーシアラウンド	TR	マレーシア/クアラランプール
10月22日～23日	2011ジャパンカップサイクルードレース	RR	栃木/宇都宮
10月30日	第7回全国ジュニア自転車競技大会	RR	三重/四日市
10月30日	2011年全日本BMX選手権大会	BMX	広島/安芸高田

連盟の動き (7月～9月上旬)

7月12日	平成23年度第2回広報委員会	於：東京・日本自転車会館3号館3階
24日	2011年BMX世界選手権大会 日本代表選手団出発	於：スイス 帰国→8/2
28日	競技運営委員会・強化委員会合同会議	於：東京・日本自転車会館3号館4階
8月9日	トロフェオ・カールスベルグジュニア日本代表選手団出発	於：ドイツ 帰国→8/16
10日	平成23年度第3回常務理事会・第1回選手強化本部会	於：東京・日本自転車会館3号館4階
10日	第26回ユニバーシアード競技大会日本代表選手団	於：中国 帰国→8/21
11日	ロンドンサリサイクルクラシック日本代表選手団出発	於：ロンドン 帰国→8/16
17日	2011年ジュニアトラック世界選手権大会	於：ロシア 帰国→8/23
28日	2011年MTB世界選手権大会日本代表選手団出発	於：スイス 帰国→9/6
30日	平成23年度第3回総務委員会	於：東京・日本自転車会館3号館3階
9月5日	平成23年度第3回広報委員会	於：東京・日本自転車会館3号館3階

東日本大震災復興支援「とどけようスポーツの力を東北へ!」

第14回 全日本自転車競技選手権大会トラック

同時開催：2011 全日本オムニアム選手権大会 兼 2012 年度強化指定選手候補選考参考大会

10月14日(金)・15日(土)・16日(日) 競技開始 9:00～ 伊豆ペロドローム <http://www.izuvelodrome.jp/>

主催：財団法人 日本自転車競技連盟 <http://www.jcf.or.jp/>

オリンピック、世界選、ワールドカップ開催と同仕様のトラック
伊豆ペロドロームの柿落とし! ぜひご観戦ください!!



<競技種目>(予定)

日本初の世界標準250m板張り屋内トラック

入場料:500円(1日)
中学生以下無料

男子 1km タイムトライアル・スプリント・4km 個人追抜競走・ポイントレース・スクラッチ・ケイリン・マディソン・団体追抜競走・チームスプリント・オムニアム
女子 500m タイムトライアル・スプリント・3km 個人追抜競走・ポイントレース・スクラッチ・ケイリン・団体追抜競走・チームスプリント・オムニアム ほか

トロフェオ・カールスベルク日本代表選手団

大会名 トロフェオ・カールスベルク
(UCI ジュニアネイションズカップ)
開催場所 ドイツ連邦共和国・ザールランド
大会期間 2011年8月11日～14日
派遣期間 2011年8月9日～16日
代表選手団
監督 柿木 孝之 (JCF ジュニア強化育成部会員)
メカニック 山脇 靖宏 (JCF ジュニア強化育成部会支援スタッフ)
選手 面手 利輝 (神奈川・明治大学)
久保田元気 (福島・日本大学)
清水 太己 (東京・プリヂストン・エスポワール)
小橋 勇利 (愛媛・松山工業高校)
山崎 航 (石川・Team Eurasia - Fondriest Bikes)
鍵本 大地 (広島・京都産業大学)

2011年ジュニアトラック世界選手権 日本代表選手団

大会名 2011年ジュニアトラック世界選手権自転車競技大会
開催場所 ロシア・モスクワ
大会期間 2011年8月17日～21日
派遣期間 2011年8月12日～23日
代表選手団
監督 中田 将次 (JCF ジュニア強化育成部会員)
コーチ 佐藤 孝之 (JCF ジュニア強化育成部会員支援スタッフ)
メカニック 山脇 靖宏 (JCF ジュニア強化育成部会支援スタッフ)
選手 奥村 諭志 (岡山・岡山工業高校)
久保田元気 (福島・日本大学)
黒瀬 耕平 (岡山・中央大学)
新山 響平 (青森・八戸工業高校)
高士 拓也 (三重・朝明高校)
田中 誇士 (静岡・伊豆総合高校)
谷口 遼平 (三重・朝明高校)

AEON
OFFICIAL SPONSOR

イオンは、
日本ロードナショナルチームの
オフィシャルスポンサーです。

feel the earth

もっと楽しく、もっと優しく

Photo: Kenji Nakamura

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで

RING!RING!

検索

Universiade Track Races



女子ポイントレースの上野



男子ケイリン決勝、優勝は中国の ZHANG Miao (左)



男子ポイントレース 4 位の窪木



女子ポイントレース銅メダルの上野

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.182 2011年8月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/富原忠夫

編集人/塚本芳大

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>



この資料および〇〇の表示がある事業は、JKA から競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。
© (財)日本自転車競技連盟 2011 本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。
※本誌「シクリスムエコー」定期購読をご希望の方は編集事務局までお問合せください。

＝シクリスムエコー読者のみなさまへ＝ 本誌についてのご意見、ご感想、ご要望等を編集事務局までお寄せください。